

＜クリスマス・ドロップ作戦＞試験投下完了、C-130任務へ *Santa's practice deliveries complete, C-130s are ready to fly*

December 13, 2018

By Senior Airman Matthew Gilmore
374th Airlift Wing Public Affairs

(写真1)グアムのアンダーセン空軍基地で12月6日、「クリスマス・ドロップ作戦2018」で、C-130Jスーパーハーキュリーズの機体後方から低コスト低高度の物資を投下する準備態勢をとる横田基地第36空輸中隊ロードマスターのマヒュー・ペファー一等空兵。

航空自衛隊、オーストラリア空軍の国際パートナーと共に行う、未調査地点への低コスト低高度空中投下の訓練を通じ、米空軍はインド太平洋地域の平和と安定を維持する。



1

(写真2)12月7日、グアムのアンダーセン空軍基地周辺でC-130Jスーパーハーキュリーズから低コスト低高度物資が投下された。

毎年、クリスマス・ドロップ作戦は、米空軍と地域のパートナーとが、自然災害への対応に備え、技術を実践し共有する場となっている。



2

(写真3)グアムの海に着水し浮かぶ、低コスト低高度投下訓練で投下された梱包箱。

クリスマス・ドロップ作戦を通じ、生活必需品が詰められたこのような梱包箱が、56のミクロネシアの島々に住む島民約2万人に届けられる。



3